

(様式2)

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200067		
法人名	社会福祉法人長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホームけやきの杜		
所在地	新潟県長岡市上野町1059番地2		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームは本体施設(ケアハウスけやきの杜)の4階にあり、周囲には田畑が広がり、弥彦山や長岡花火などの景観を楽しむことができる。1階の敷地内には中庭やふれあい農園があり、4階のバルコニーでは花を育てたり、日光浴を楽しんで頂いたり、自然と触れ合う楽しみ、機会を大切にしている。

・併設するケアハウスやデイホームから入居される方もおり、行事やイベントなど日常生活を通じて馴染みの関係性が途切れないよう支援している。

・新型コロナウイルス感染予防対策により、今年度も中止となったが、町内の祭りや敬老会、賽の神といった地域の行事や催しに参加。防災訓練では町内の方とお互いに協力し合い、地域とのつながりを大切にしている。

・ご家族はご入居者を共に支える存在として考え、受診の協力をはじめ、行事などにも声を掛け参加して頂いている。年4回、ご利用者の様子を記載した個別状況報告書を広報誌と一緒に発送。何かあれば随時、ご家族と相談できる関係作りに努めている。

・生活の主体はご利用者であることを基本に意見交換会を年4回実施。行きたい場所や食べたいもの、やりたいことを一緒に決めたりと、ご利用者の声を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、四方を自然豊かな田園地帯に囲まれた新旧の住宅街の中に立地し、周囲には神社や公民館、コミュニティセンターがあり、日常的に地域の人たちが行き交い、生活の息遣いを感じながら過ごせる環境にある。また事業所名の由来になったケヤキや桜の木々が季節ごとにその姿や色を変え、春は桜、夏は深緑と木陰、秋は紅葉に触れながら散策を楽しむことができる。

コロナ感染症流行前は、地域の祭りや行事に参加したり、買い物や外食などで近隣へ外出したり、本体施設の夏祭りに地域の人たちを招待したりして、地域の人たちとの交流を積極的に行い、地域の中で利用者一人ひとりの生活を支えていた。今後も感染状況に注視しながら、地域との関わりやつながりを維持し、広げていけるように考えている。

事業所では、今年度「利用者一人ひとりを尊重したケア」を実践するため、利用者の意向を丁寧に聴取して利用者の持つ強みを発揮できる機会を作りながら、利用者の視点に立った支援に取り組んでいる。また職員間ではチームワークの向上を目指し、お互い様の気持ちで声をかけ合うことに努めており、お互いを尊重し助け合うチームができています。職員の良好なチームワークが機能し、利用者が主体となり、和やかな雰囲気の中で一人ひとりが役割ややりがい、楽しみを持って、その人らしい生活が送れており、利用者からは穏やかな表情や笑顔が見られている。

事業所は地域の高齢者介護、特に認知症ケアの拠点として、その役割を担い、地域とともに歩んできている。今後も地域の認知症ケアを支える重要な拠点として地域の期待に応えていける事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員から意見を聞いた中で、重点方針、ケア目標を作成。ケア目標に対する評価を定期的に実施することで、認識と共有に努めている。	年度初めに職員で話し合い、重点方針とそれを具体的に実践するケア目標を設定し取り組んでいる。重点方針とケア目標は毎月の部署会議で確認し意識付けを行っており、職員の主体的な行動につながっている。また年3回一人ひとりがケア目標に対して振り返り、評価を行い、課題に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策における取組の中、ご利用者自身の外出や外部の方との交流の機会が図れない状況が続いており、今年度も地区の敬老会やお祭りも中止となった。昨年度、敬老会で地域のこども園や小学校の生徒さんからのプレゼントも添えられており、お礼という形で手作りの作品などをプレゼントさせていただいた。地域との繋がりとして、今年度もプレゼントを予定している。	新型コロナ感染症のため、地域の祭りや敬老会、運動会等を通じた交流の機会がなくなっているが、事業所として地域とのつながりを維持するために、保育園児や小学生からの贈り物のお礼に手作りのしおりや折り紙で作った作品を贈り、心を通わせている。今後は感染状況を注視しながら、地域行事やコミュニティセンターの活動等に参加して、利用者が地域の一員として暮らし、交流する機会を広げていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、施設や地域の行事などの参加を通じて、事業所を知ってもらうとともに認知症について理解して頂けるよう努めているが、今年度も新型コロナウイルス感染防止対策のため実施できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止対策の中、書面形式による開催が多かった。昨年度は全6回中、第4回、5回については感染状況が落ち着きおり、対面形式で開催。タイムリーな意見交換ができ良かった。今後も感染対策を図りながら、できるだけ対面による会議ができるよう努めていきたい。	会議は利用者・家族代表、住民代表(有識者)、市担当者、地域包括支援センター職員、本体施設長の参加で2か月に1回実施している。これまでの会議での意見を受けて、今年度からコミュニティセンター長と町内会長がメンバーに加わっている。また職員も輪番で参加して参加者の意見を聞いている。新型コロナ感染状況をみながら開催形式を判断している。会議では事業所の取り組み状況や利用者の様子等について報告し、意見や助言をもらったり、地域情報を得る機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度も新型コロナウイルス感染防止対策のため、介護相談員の来所や市で開催するグループホームの交流会などは中止となっている。市町村担当者へは運営推進会議で状況報告を行い、意見もいただいている。困った時は相談できる関係性を大切にしていきたい。	市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の取り組みや考えについて理解が得られている。市担当者には日頃から報告・連絡に努めており、気軽に相談や助言が受けられる関係性が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアマネジメント委員会の中に身体拘束廃止班を設置。2か月に1度、施設内の他部署(デイサービス、デイホーム、ケアハウス)の職員と合同で話し合いの場を設けており、施設内研修も計画し実施している。また、建物の構造上、安全面に配慮し非常階段やエレベーターを自由に利用できないが、希望時は職員が付き添い、一緒に利用して頂いている。	年1回施設内研修を計画し、全職員を対象に実施しており、事業所の入口(玄関)の施錠を含め、身体拘束は行わないケアに取り組んでいる。転倒のリスクが高い利用者に対しては、本人の安全と抑圧感のない生活を支援する視点から対応を検討して、ナースコールの設置とセンサーマットを使用している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の他、毎月実施しているグループホーム会議においてカンファレンスを実施。職員のケアに関する困りごとや疑問などを話し合い、共有できるよう努めている。また、職員がいつでも関係書類を閲覧できるようにしている。	年1回施設内研修が計画され、全職員が虐待について学ぶ機会を持っており、不適切なケアについても確認がなされている。不適切な言葉かけがあった時にはお互いに声をかけ合ったり、管理者から問いかけがある。職員の疲労やストレスにも注意を払っており、アンガーマネジメントに関する研修を実施したり、職員体制に応じて業務内容を変更したりして対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修の年間計画の一つとして実施している。関係資料をグループホーム内に置き、いつでも職員が読めるようにしている。後見制度を利用している方もおり、ご利用者のご家族よりお話しがあれば、相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明や話し合いの時間を設け、納得、理解して頂いた上で契約を行っている。また、解約の際も、ご本人の状態や退所後の先も含め相談させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者との意見交換会を年4回実施。運営推進会議にて報告を行ったり、行事や活動に活かしている。新型コロナウイルス感染防止対策による面会制限中は、ご家族との電話連絡の際、ご利用者の様子を伝えると共に、心配や不安ごとなどの相談も何うように努めている。	「利用者の意向の実現」をケア目標に掲げて取り組んでおり、日々の関わりの中で利用者の意見を丁寧に聞き、把握した意見は「気づきノート」に記入し共有している。行事月の前には利用者との意見交換会を開催しているが、その際は、絵や写真等を活用して利用者がわかりやすく意見表明や選択できるように工夫し、行事や生活に反映させている。年度末には家族に対するアンケートを実施して意見や要望等の把握に努めている。家族の意見を受けて面会方法を検討する等、柔軟に運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は月1回のグループホーム会議に参加し、現状や取り組みの確認を行っている。経営会議、各種委員会を実施し、職員の提案を活かせるよう努めている。QCサークルを設置、業務改善に取り組んでいる。	管理者は、小規模な事業所であるが故に職員間のコミュニケーションが大切と考えており、日頃から職員の話聞くように努めている。部署会議の中でも意見を聞き、話し合っている。職員は「気づきノート」に意見や提案等を記入することもでき、気づきノートを通じて気軽に管理者と意見交換をしている。業務に関する意見や提案等は施設内の「業務改善委員会」の中で話し合う仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に「今年度の反省と来年度の抱負」を全職員が記載し管理者が確認後、代表者へ提出。個々の思いを把握するとともに必要に応じて、個々の意見を伺う機会を設け職場環境の改善、働きやすさに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の他、法人内のグループホーム部会で研修会を計画し開催。今年度は全職員が同じ内容の研修を受けられるよう、動画配信を視聴するという形で計画し実施中。新人職員の育成についてはエルダー制を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの管理者が集う部会を設置し毎月開催。各事業所の現状報告や意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでご本人にお会いし、話を聴く機会を設けている。十分に説明しご本人が安心できるよう努めている。言いやすい雰囲気や場面作りに努め、一緒に生活しながら変化や不安な事に耳を傾け、思いに気付けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点で、困っている事や不安なこと、求めている事等をご家族からお聴きし、相談にのるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援があれば、ケアマネに報告・相談したり、法人内の各種サービスへ繋げられるように他施設と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活場面において、職員が一方的に行うのではなく、ご利用者が自主的に行ったり、ご利用者の方から声を掛けてもらえるキッカケ作りを大切にし、感謝の言葉も大事にしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止で面会制限をはじめ、ご家族が行事に参加できない状況が多く、居室担当を中心にご家族と連絡を取り合い、関係作りに努めている。年4回、ご家族宛てに広報誌を作成。活動をはじめ、日々の様子について掲載。状況報告書という形で居室担当からの文章を添え発送している。また、受診については、ご家族に協力をお願いしている。対応が難しい時は相談をさせていただき、ヘルパー依頼や職員による付き添い、支援を行っている。	家族には受診の付添い、施設行事への参加、外出・外泊、日用品の準備等をお願いしており、入居後も利用者と一緒に過ごし思いを感じ合える時間を大切にしている。コロナ禍において家族とのつながりを維持するために、利用者の様子や生活状況について情報共有に努めており、個別状況報告書を送付している。面会については利用者や家族の状況に合わせて、扉越し面会等、柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策による面会や外出・外泊の制限により、直接の触れ合いが難しい状況が多く、希望の方についてはリモートでの面会や電話で話をされている。感染状況を踏まえ制限緩和の中、対面での面会を実施。時間、場所の制約を設けた中での面会ではあるが、直接、顔を合わすことによる安心感や喜びがあり、今後もご家族の理解と協力を得ながら、関係が継続できるよう努めていきたい。	「センター方式」のアセスメントシートを活用して、本人や家族から情報を聞き取り、把握に努めており、利用者一人ひとりにとっての馴染みの関係が途切れないように支援している。馴染みの理美容店を利用してもらったり、電話の取次ぎやハガキを出す等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が穏やかに気持ちよく生活していけるように、必要な時は職員が間に入り、大きなトラブルにならない様に配慮したり、ご利用者同士の関係や背景を把握し、席の配慮や仲良く過ごせる場の設定など互いに安心できる馴染みの関係づくりに努めている。ご利用者同士が支え合うご様子が見られた際は、他のご利用者を助けて下さったことに、感謝のお気持ちを伝えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や永眠されて契約が終了となった後も、遠慮なく来ていただける良い雰囲気作りを心掛け、必要に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの意向を尊重し、日々の言動からその方の思いを読み取り、職員間で共有するよう努めている。また、年4回、意見交換会を行い、定期的にご利用者の意見や意向を伺い行事等へ反映している。	職員は利用者一人ひとりの思いや意向を見逃さず聞き逃さないように注意しながら接している。把握できた思いや意向は「気づきノート」に記入して職員間で共有している。言葉に表せない利用者に対しては、選択できるように絵や写真等を活用したり、声かけを工夫したり、表情から読み取れるように寄り添ったケアの実践が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人やご家族にお聴きするとともに、担当ケアマネより情報をいただいたり、センター方式の一部の書式を用い、ご家族より記入していただいている。また、日々の会話やご家族・知人の面会時に話を伺うなど、把握に努めている。	入居前の事前面談を行うほか、「センター方式」のアセスメントシートを家族にも記入してもらい、これまでの暮らしや生活歴の把握に努めている。在宅でサービスを利用していた利用者については担当介護支援専門員やサービス事業所からも情報を得ている。入居後もアセスメントを継続し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察や会話の中で得られた気づきを大切にしている。記録を残し確認、把握に努めるとともに、必要に応じて口頭で情報を発信。日々の様子を写真に残したり、毎月実施の部署会議内で個々の状態や情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺うと共に、評価が偏らないよう、部署会議の中で評価、検討する機会を作っている。部署会議の開催が難しい時は日々の申し送り時などで意見交換や確認を行うようにしている。	利用者や家族の思いや意向を確認し把握して、計画作成者が暫定計画を作成し、その後は居室担当者を中心として、部署会議の中で職員間で検討する機会を持ち、計画作成者とともに介護計画を作成している。支援の実施状況は毎日チェックし、モニタリングと見直しを定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録、業務日誌に記録し、グループホーム全職員が出勤時に必ず確認し情報の共有に努めている。会議やミーティングまでに意見や気付いた点を各自で考えておき、様々な意見を聴いた中で、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の機能を活かし、デイサービスやケアハウスの活動に参加したり、合同での行事を企画したりと、グループホームだけに固執しない取り組み、楽しみを大切にしながら、県内における感染状況の拡大により合同の夏祭りが中止となってしまった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で意見やアドバイスをいただいている。今年度も新型コロナウイルスの感染防止対策のため外出を伴う活動や交流が中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方が在宅からの掛かりつけ医を継続的に利用されており、ご家族の希望やご本人の状態変化に伴い認知症に対応した病院や往診可能な医院の相談をさせて頂くこともある。受診についてはご家族の協力をいただいております。遠方の方で介護ヘルパーを利用される方もいます。必要時、掛かりつけ医宛てに状態報告書を作成したり、直接電話にてご本人の状態をお伝えしている。	利用者や家族の希望を受けてこれまでのかかりつけ医の継続を支援している。受診は基本的に家族対応としており、介護ヘルパーによる通院支援を受けている利用者もいる。歯科診療は法人の協力医療機関から訪問を受けている。診察の際には健康チェック表と状態を記載した状態報告書を作成して渡し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務で併設のデイサービスの看護師が関わっている。週一回、看護師による健康チェックを実施。ご利用者の情報の共有と健康管理に努めており、相談や確認が随時取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な状況に応じ医療機関と相談・話し合いを行い一緒に考え、対応できる体制づくりに努めている。入院時、必要な情報を伝え、また入院時の様子や退院の可能性、予後に関して連絡を取り情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う指針について説明。ご本人・ご家族の意向に添った中での支援を基本とし、その都度ご家族や医療機関に説明・相談し、どのような方向がご本人にとって一番良いのかを一緒に検討している。	重度化した場合の方針や対応について、入居時に十分な説明を行い、利用者や家族から理解を得ている。利用者の状態変化に伴い、早い段階から家族と話し合いを行い、法人内の多様なサービス事業所とも連携・相談しながら住まいの移行ができるように支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用方法について施設内研修で学ぶとともに、スタッフルームに緊急時のマニュアルを綴った専用ファイルがある。	急変時の連絡体制や対応マニュアルは整備されており、職員はいつでも確認でき、初期対応ができるようにしている。夜間緊急時にはその日の当番職員が駆けつける体制がとられている。施設内研修では急変時の対応について学んでおり、感染症への対応では実践的な訓練も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修で対応を学んだり、防災訓練を定期的に行い避難方法を身に付けている。新型コロナウイルス感染防止対策にて施設職員のみでの実施であったが、町内の防災会と協力し、地域に呼び掛け、消防、通報、緊急連絡、誘導の訓練を一緒に行なっていた。他施設との協力体制あり。災害備蓄物品あり。	消防署の立会いも受けながら、年2回、日中・夜間の設定で火災、地震、水害を想定した避難訓練を実施している。事業所は建物の4階に位置しており、避難方法について専門家からの意見をもらいながら訓練が行われている。訓練の反省を活かして避難手順を見直したり、防災用具を購入している。コロナ禍により地域の避難訓練には参加できていないが、町内会とは災害時の協力体制が構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して、礼儀や尊敬の念を持ち関わっている。入浴や排泄などの介助場面において、同性職員や気の合う職員が対応を行うなど、お一人おひとりの思いに寄り添い、気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。	施設内研修で接遇について学んでおり、利用者一人ひとりに対応した声かけや対応を行っている。常に利用者を尊重し、馴れ合いにならないように注意して接し、不適切な声かけや無意識のマナー違反等があった場合には職員間で注意し合える関係ができています。職員は、利用者の前では利用者の話はしない、記録はスタッフルーム内で行うこと等を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思確認ができる形での言葉かけを大事にしている。思いや希望を伝えることが難しい方については、表情や行動、普段の様子から汲み取るよう努めている。また、遠慮なく、ご本人の気持ちを職員に表すことができる関係作りを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にしながらも、その都度、意向を確認しご本人の体調やペースに配慮した支援に努めている。家事活動の場面ではお願いをするだけではなく、ご利用者の方から声を掛けていただけるようなキッカケ作りを行ったり、入浴の場面では曜日を固定せず希望を伺いながら対応させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と馴染みの理美容へ行かれる方もいる。今年度も新型コロナウイルス感染防止対策により利用が難しいため、ご希望を伺いながら訪問美容での対応をさせて頂いている。また、可能な方については、日常的に着替えの衣類を選んでいただいたり、ご本人の要望を伺い必要なものがあれば、ご家族に持参をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けなど、それぞれ得意なことを活かした中で協力してもらい行っている。献立を考える際、ご入居者と相談したり、日頃からご利用者の好みを把握するように努めている。ご希望があればご飯からお粥やパンへの変更など、これまでの習慣や好みに応じて対応している。行事食については事前に意見交換会にてご利用者のご意見を伺い、取り入れている。	朝食と夕食は宅配食材を利用し、昼食は利用者との献立を相談して一緒に食事作りや片付けをしている。食材にはプランターや農園で収穫した野菜を取り入れ、食事形態の変更や好き嫌いには代替え食品を提供し、朝はパンも選択できる等、利用者にとって食事が楽しみになるように配慮し工夫している。季節や行事に合わせた恵方巻やおやつ、誕生日の手作りケーキや、時にはバルコニーで食事を食べる等、バリエーション豊かに食への関心を高める演出をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の確認を行い、ご本人の状態に応じて、ご家族や主治医に相談し対応している。召し上がる量が少ない方には、好まれるものをお出ししたり、居室へお持ちするなど個別で対応。食事摂取量が少ない方については、医院からの処方やご家族持参の栄養補助食品もお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいなど、ご本人の持っている力に合わせて支援している。義歯の方で入れ歯洗浄剤を持参されている方については、夜間、洗浄剤による洗浄を実施。また、毎月、協力歯科医より口腔衛生管理にかかわる助言をいただいている。定期的な往診で口腔内の確認、掃除を行ったり、義歯調整をされる方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態に合わせ、必要な方には定期的に声を掛け、見守りや確認をさせて頂いている。また、ソワソワして落ち着かないなど、ご本人の様子やタイミングで声を掛け、誘導させて頂いている方もいる。随時、対応について検討している。	一人ひとりの排泄状況と水分摂取量を記録し把握して、トイレで気持ちよく排泄できるように支援している。トイレ誘導時の声かけは羞恥心にも配慮している。夜間はトイレの位置がわかりやすいようにトイレ内を点灯している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認するとともに、食材に野菜を多く取り入れたり、乳製品を取り入れたりしている。水分の摂取量にも注意し、便秘や脱水しないよう働きかけている。日課として体操を行ったり、個別での運動の場面も提供。寒天を活用するなど薬だけに頼らない対応もおこなっている。必要に応じて主治医に相談、報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めておらず、ご本人の希望を伺い入浴していただいている。入浴の間隔が開き過ぎないように、入浴された日を把握しながらお誘いしている。同性や気の合う職員など、安心して気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。	入浴は利用者の希望を反映して、基本的には午前中で週2回以上の入浴としているが、利用者の状況によっては午後シャワー浴も行っている。同性介助や気の合う職員が対応する等、心地よく入浴できるように配慮している。ヒノキの浴槽で視覚的にも楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活スタイルに合わせて、安心して眠っていただけるよう対応している。また、室温や照明を調節したり、穏やかな気持ちで眠れるような言葉掛けや付き添いを行っている。また、持参の電気毛布などを使用されている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用量・注意事項などが記された説明用紙がファイルに閉じてあり、随時確認出来るようになっている。薬の変更があれば、変更点が分かるよう連絡ファイルに挟み、職員に周知している。状態変化に伴い、主治医にも報告し服薬の調整を図ってもらっている。服薬ミスが起きないように、服薬チェック表の記入を行い、職員ダブルチェックで確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味や特技、持っている力が日々の生活に繋がるようケアプランとは別に個別チェック表を作成し実施。畑仕事や花の世話、梅シロップ作りや柿の焼酎漬け、干し柿作り、おはぎ作りなど、季節感や遣り甲斐、楽しみを感じれる支援にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策のため、日常的な外出支援はできない状況の中、屋外での食事会などバルコニーや敷地内の庭や畑を活用した活動、支援を実施。バルコニーで日光浴や長岡花火観覧を行った。	近くに神社があり、また、事業所の周囲にはケヤキや桜の木々が立ち並び、田畑が広がり、コロナ禍以前には日常的に散歩に出かけていた。現在は、敷地内で散歩や花見をしている。また、施設敷地内の中庭に出て池を眺めたり、草取りをしたりして日頃から戸外に出かける機会が持てるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策のため、買い物に伴う外出についても実施ができなかった。お金を所持することで安心される方については、事前にご家族と相談の上、自己管理で持参していただくこともできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族へ確認し電話をかけていただいております。携帯電話を所持されている方もいる。手紙も自由にやり取り出来るよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や採光に配慮している。バルコニーでお花や野菜を育て、食堂から見渡せるように配慮している。また、季節を感じていただけるような装飾や育てた花をリビングのテーブルや居室に飾り、居心地良く過せるように工夫している。	リビングの窓からは遠く広がる田園風景や山々が見え、夏には有名な長岡の大花火が眺められる等、季節の移り変わりを感じることができる。建物内は明るく、季節の花や利用者の作品、活動の写真が飾られている。小上がりの畳スペースや、廊下にはベンチやソファが置かれ、落ち着けるスペースを随所につくり、思い思いに過ごせるように工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルで気の合う仲間が集まり塗り絵や折り紙、かるた遊びをしたり、将棋や読書など個別の趣味を楽しまれる方もいる。また、テレビ前にソファや小上がりの畳み部屋があり、一人でコーヒーやお茶を飲みながら好きな歌やスポーツ番組などを楽しまれる方もおり、ゆっくりとくつろげる環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人・ご家族と相談して、ご本人が慣れ親しんだ家具、食器等を持ちこんでいただき、安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	自宅からの持ち物の多い・少ないは利用者によって違うが、冷蔵庫や大正琴、机や籐の座椅子等が持ち込まれていたり、家族の写真を飾ったりと、本人や家族と相談しながら落ち着いて過ごせる居室づくりに努めている。各居室には内鍵がありプライバシーが守られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できなかつたり、分からないことについては一緒に行くなど、必要に応じて支援。ご自分の居室が分かり易いよう入口に暖簾を掛けている方もいる。また、移乗、移動に見守りや介助が必要な方については、いつでも呼んでいただけるよう呼び出しブザーの設置など安全面に配慮した環境作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		